

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

令和3年6月

豊田工業高等専門学校

- ・自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
 - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、当該ページを印刷した資料（該当資料名、資料番号を記入）及びそのURLを欄中に貼付すること。
 - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。
なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。
- ・根拠資料のみでは、内容が伝わりにくい場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄もしくは根拠資料内に簡単な補足説明を加えること。
- ・関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(設)高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	豊田工業高等専門学校
2. 所在地	愛知県豊田市栄生町2-1
3. 学科等の構成	準学士課程：機械工学科，電気・電子システム工学科，情報工学科，環境都市工学科，建築学科 専攻科課程：電子機械工学専攻，建設工学専攻，情報科学専攻
4. 認証評価以外の 第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：電子機械工学専攻，建設工学専攻，情報科学専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：電子機械工学専攻，建設工学専攻，情報科学専攻） その他（ ）
5. 学生数及び教員数 (評価実施年度の5月1日現在)	学生数：1,164人 教員数：専任教員74人 助手数：0人

(2)特徴

豊田工業高等専門学校（以下「本校」という）は、産業界の強い要望により、中堅技術者の養成を目的とした高等教育機関として、昭和38年4月1日に設置された。設立時の準学士課程（本科）の学科構成は、機械工学科、電気工学科及び建築学科の3学科であり、入学定員はそれぞれ40名であった。昭和38年愛知県豊田市のトヨタ会館において開校式と第1回入学式を挙行し、トヨタ自工（株）本社工場内の施設を仮校舎、旧豊田市役所を仮学生寮とし、昭和39年愛知県豊田市栄生町の本校舎に移転し、現在に至っている。この間、昭和43年度には土木工学科（入学定員40名）、昭和62年度には情報工学科（入学定員40名）が増設された。また、平成5年度には土木工学科が環境都市工学科に改組され、平成6年度には電子機械工学専攻、建設工学専攻及び情報科学専攻の3専攻からなる専攻科課程（専攻科）が設置された。平成11年度には電気工学科が電気・電子システム工学科に名称変更されている。現在では、5学科・3専攻、学生数1,040名(入学定員)規模の教育・研究機関に発展してきている。

本校では、以下の事項に取組み成果を上げている。「国際性の育成」として、英語教育の活性化（英語多読授業を全学で展開し、本科第3年及び専攻科1年全員がTOEIC団体受験をしている）、海外留学（毎年40名前後の学生（本科2～3年）を海外に留学生として送り出している）に特徴がある。「ものづくり教育」として、各学科でPBLに取り組み、オープンキャンパス、ロボコン、プロコン、デザコン等で成果をあげている。また、夏季休業中にもものづくりセミナーを実施している。「FDへの積極的な取り組み」として、FDセミナー、FDシンポジウム等を定期的に開催し組織的な教員の資質向上に務めている。また、公開授業で教員同士のスキルアップを図り、保護者による授業参観による点検評価も実施している。「専攻科教育」では、平成18年度から授業を7月中に終了させ、8・9月の2ヶ月間インターンシップを実施している。また、平成16年度に「電気・電子システム工学プログラム」、「環境都市工学プログラム」、平成17年度に「機械工学プログラム」、「情報科学」のプログラム、平成18年度には「建築学プログラム」が認定され5つ全ての専門分野別にJABEE認定されている。専攻科生には、専門学協会等で口頭発表させ、活動の活性化、コミュニケーション能力の向上に役立てている。その他として、原則全教員が科研費申請をし、採択件数も徐々に増えており外部資金獲得に努力し成果をあげている。教員研究集会の文部科学大臣賞受賞等多くの教員が学協会で表彰を受けている。公開講座、出前授業を実施している他、平成24年にとよたイノベーションセンターを地域共同テクノセンター内に開設し、産学官連携による共同教育を行っている。

II 目的

1.使命

教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を昭和38年の創設時に学校の目的と定めている。また、平成6年には専攻科の目的を「高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導すること」と定めている。

2.目的

学校の目的：本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること（豊田工業高等専門学校学則 第1条）

準学士課程（豊田工業高等専門学校学則 第7条）

専攻科課程（豊田工業高等専門学校学則 第41条）

専攻科は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする（豊田工業高等専門学校学則 第39条）

3.教育研究活動の基本方針及び養成しようとする人材像など

本校の社会的使命は、実践的で、創造力ある技術者を育てることを通して、人類社会の福祉増進に貢献することである。本校で行う教育の特徴は、豊富な体験学習を基礎に、若年期からの創造性の育成、専門分野に関する基本的知識、実践的技術の習得を中心として、技術の社会的責任を認識しつつ、広い視野を持って、創造的に技術開発に挑戦し続け得る技術者を養成することである。

4.教育目標

本校では、次のような教育目標を設定し、教職員と学生による不断の研鑽と緊密な連携により、これに向かって鋭意努力している。

(1) ものづくり能力

社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成

(2) 基礎学力

実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立

(3) 問題解決能力

問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成

(4) コミュニケーション能力

科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力、および国際的に通用するコミュニケーション能力の修得

(5) 技術者倫理

世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項 A 研究活動の状況

評価の視点 A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。			
観点 A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。			
【留意点】 <input type="radio"/> 個々の研究者の持つ研究目的ではなく、学校全体として独自に定めた研究活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。			
関係法令 〔設〕第2条第2項			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 定めている	◇定めていることがわかる資料		
	資料A-1-1-(1)-01 豊田工業高等専門学校の研究活動に関する目的・基本方針・目標について		
観点 A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。			
【留意点】 <input type="radio"/> 観点 A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。 <input type="radio"/> 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。 <input type="radio"/> 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。			
関係法令 〔設〕第2条			
観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■） 以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する			
自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料	2つの目的「教育活動への還元」「社会への貢献」を包括した実施体制を整備している。 全教員が研究に携わっており、各学科に配置されて、研究を実施している。	
	資料A-1-2-(1)-01 豊田工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程	第9条「総務企画係」 二十六～三十	
	資料A-1-2-(1)-02 豊田工業高等専門学校産学連携・地域活性化推進委員会規程		
	資料A-1-2-(1)-03 豊田工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程		
	資料A-1-2-(1)-04 豊田工業高等専門学校材料・構造物疲労試験センター利用規則		

	資料A-1-2-(1)-05 豊田工業高等専門学校テクノコンプレックス規程		
	資料A-1-2-(1)-06_とよたイノベーションセンター事業案内	地域のものづくり企業の研究ニーズを収集するしくみを構築している。	
(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(1)-03 豊田工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程		再掲
	資料A-1-2-(1)-04 豊田工業高等専門学校材料・構造物疲労試験センター利用規則		再掲
	資料A-1-2-(1)-05 豊田工業高等専門学校テクノコンプレックス規程		再掲
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(1)-01 豊田工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程		再掲
	資料A-1-2-(1)-02 豊田工業高等専門学校産学連携・地域活性化推進委員会規程		再掲
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■ 行われている	◇研究活動の実施状況がわかる資料		
	資料A-1-2-(4)-01 外部資金受入実績（共同研究等）		
	資料A-1-2-(4)-02 外部資金受入実績（科研費）		

観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

【留意点】

- 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。
- 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

- 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■ 得られている	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料		
	資料A-1-2-(4)-01 外部資金受入実績（共同研究等）		再掲
	資料A-1-2-(4)-02 外部資金受入実績（科研費）		再掲

観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

- 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。
- 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。
- 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■ 満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■ 整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料A-1-4-(1)-01_豊田工業高等専門学校自己点検・評価・将来計画委員会規程	第2条2, 第6条五, 別表 5)	
	資料A-1-2-(1)-02_豊田工業高等専門学校産学連携・地域活性化推進委員会規程	第2条二,三,四	再掲
	◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	本校では、研究活動の「目的」の一つとして、「産学官連携による研究開発活動を通して社会へ貢献する」を掲げている。従来より、とよたイノベーションセンター（本校と豊田市・豊田商工会議所の連携組織）の活動を通して、産学官連携に積極的に取り組んでいるところではあるが、その取り組みをさらに強化するため、この3者に加え、地域のものづくり企業（中小企業から大企業まで）と金融機関をメンバーとした「豊田市ものづくり人材育成官民協議会」という新しい組織を立ち上げ、本校が校となって（本校副校長が会長として）企業ニーズの把握に努めている。その成果をもとに、本校の研究シーズとのマッチングを推し進める。		
	資料A-1-4-(1)-02_豊田市ものづくり人材育成官民協議会「開催案内」		
	資料A-1-4-(1)-03_豊田市ものづくり人材育成官民協議会「委員名簿」		

A-1 特記事項 この評価の観点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし	

選択的評価事項A 目的の達成状況の判断

■ 目的の達成状況が良好である	
-----------------	--

選択的評価事項 A

優れた点

地域のものづくり企業の研究ニーズを収集するしくみを構築している。

	資料A-1-2-(1)-06_とよたイノベーションセンター事業案内		再掲

改善を要する点

該当なし

選択的評価事項 B 地域貢献活動等の状況

<p>評価の視点</p> <p>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</p>			
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 学校全体として独自に定めた地域貢献活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。</p>			
<p>関係法令 (法)第107条 (設)第21条</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■ 定めている</p>	◇定めていることがわかる資料		
	資料B-1-1-(1)-01 豊田工業高等専門学校の地域貢献活動に関する目的・基本方針・目標について		
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>			
<p>関係法令 (法)第107条 (設)第21条</p>			
<p>観点の自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■ 満たしていると判断する</p>			
自己点検・評価結果欄 (該当する口欄をチェック■)	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■ 策定している</p>	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料		
	資料B-1-2-(1)-01 豊田工業高等専門学校出前授業要項		
	資料B-1-2-(1)-02 豊田工業高等専門学校における出前授業及び地域貢献活動に対する支援に関する申合せ		

(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施している	◇実施状況がわかる資料		
	資料B-1-2-(2)-01_令和2年度公開講座実施状況		
	資料B-1-2-(2)-02_令和2年度出前授業実施一覧		
	資料B-1-2-(2)-03_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「技術・経営相談」		
	資料B-1-2-(2)-04_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「イノベーションセミナー」		

観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。

【留意点】

目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 <input checked="" type="checkbox"/> 認められる	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）		
	資料B-1-2-(2)-01_令和2年度公開講座実施状況		再掲
	資料B-1-2-(2)-02_令和2年度出前授業実施一覧		再掲
	資料B-1-2-(2)-03_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「技術・経営相談」		再掲
	資料B-1-2-(2)-04_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「イノベーションセミナー」		再掲

観点B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 <input checked="" type="checkbox"/> 整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料A-1-4-(1)-01_豊田工業高等専門学校自己点検・評価・将来計画委員会規程	第2条2, 第6条七, 別表7)	再掲

	資料A-1-2-(1)-02_豊田工業高等専門学校産学連携・地域活性化推進委員会規程	第2条四,五	再掲
	◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	ものづくり現場でのDXを促すために、デジタル技術を核とした製造技術者向けの実践的な講座を求める声が、地元産業界で高まってきた。それを受けて、令和2年度より、「デジタル×ものづくり」カレッジという産学官連携講座を新規に立ち上げた。		
	資料B-1-4-(1)-01_「デジタル×ものづくり」カレッジ		

B-1 特記事項 この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

該当なし			

選択的評価事項B 目的の達成状況の判断

<ul style="list-style-type: none"> 目的の達成状況が非常に優れている 			
--	--	--	--

選択的評価事項B

優れた点

豊田市、豊田商工会議所と連携協定を結び、独自の産学官連携組織である「とよたイノベーションセンター」を開設し、運営体制・支援体制を強化し、着々と成果を上げている。

	資料A-1-2-(1)-06_とよたイノベーションセンター事業案内		再掲
	資料B-1-2-(2)-03_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「技術・経営相談」		再掲
	資料B-1-2-(2)-04_令和2年度とよたイノベーションセンター事業報告書「イノベーションセミナー」		再掲

改善を要する点

該当なし			